

# 申請当初の計画と現在達成状況

大谷大学

「学まち連携大学」促進事業にご支援頂き、大谷大学(以下、本学)における地域連携の取組みにつきまして、達成目標に対する進捗状況を報告します。

## 教育プログラムに関する達成目標

2019(平成31)年度においては、短期大学部幼児教育保育科及び文学部社会学科での取組みの充実化を図るとともに、全学共通科目を新たに開講し、全学的な地域連携型の教育プログラムの推進を図る。

申請書に記載した現状と目標

2016年度		2019年度	
短幼教 正課科目	6科目	短幼教 正課科目	12科目
文社会 正課科目	12科目	文社会 正課科目	12科目
		全学共通科目	2科目



地域連携に取り組む学科毎の科目数実績。()内数値は課外活動数。

年度	文社会	社コミュ	文人文	文歴史	短幼教	全学共通	合計
2015年度	1(3)						(3)
2016年度	18(2)				6		(2)
2017年度	21(2)				6	2	16(2)
2018年度	28(2)	2	1	1(1)	3(2)	2	35(3)

追加された。幼児教育保育科で科目数が減少したのは、乳幼児とその保育者を対象とした事業を従来は授業実施日と同じ平日に開催していたものが、対象者の参加しやすさを考慮し、土日の開催に変更することになったためである。土曜日は補講が開講される頻度が高く、授業の振替として実施することも困難であるため、やむをえず、一部課外活動として取り組むことになったことに起因する。

2018年度は従来活動に加え、「駅ナカアートプロジェクト(人文情報)」、「フィールドワーク(社会)」、「まちの居場所プロジェクト(社会)」、「歴史探求(歴史)」、「伝記作成(コミュ)」が新規プロジェクトとして

## 地域連携活動の達成目標

北区烏丸北大路地域を中心に、行政、地域住民、NPO、地元企業、商店等の事業者と広く連携し、地域の活性化に寄与する。プロジェクトの柱としては、①子ども・子育て支援、②地域情報の発信、③若者の地域活動参加促進、④観光振興、⑤祇園祭ごみゼロ大作戦の5種。

定量的な目標

2016年度		2019年度	
子ども・子育て支援	3事業(すくすく、いないいない、サロン)	子ども・子育て支援	3事業(すくすく、いないいない、サロン)+2事業程度
地域情報の発信	1事業 ラジオ	地域情報の発信	1事業 ラジオ+2事業
祇園祭ごみゼロ	1事業 ごみゼロ	若者の地域	新規2事業
		観光振興	新規2事業
		祇園祭ごみゼロ	1事業 ごみゼロ



達成状況

①子ども・子育て支援	△ 従来から実施する3事業に加え、近隣保育施設との連携事業を新に開始
②地域情報の発信	○ ラジオ、ウェブ、フリーペーパーの3種に取り組む
③若者の地域活動参加促進	○ 聞き取りを通じた多世代交流、京都府ソリデール
④観光振興	×
⑤祇園ごみゼロ	○ 祇園祭ごみゼロ大作戦
⑥地域文化・歴史の継承・発展	(新規)上賀茂神社、(財)葵プロジェクトとの連携事業



概ね当初目標通りに達成しつつある。④観光振興については、この間、プロジェクト化に向けて地域ニーズの調査などを進めてきたが、現時点において需要は極めて少なかった。その一方で地域の歴史・文化を受け継ぎ、後世へ引き継ぐための資料整理やアーカイブ化などに関する需要があることが分かったため、新たなテーマとして⑥地域文化・歴史の継承・発展を設け、2019年度以降の正課科目化を目指し、「歴史探求プロジェクト」として現在課外活動として取り組んでいる。

## 学内の実施体制

地域連携コーディネーター(アドバイザー)2名体制を維持する。地域連携室学生リーダー制度を設け、20名程度任命。

### 達成状況

#### <地域連携コーディネーター>

2018年7月現在、地域連携コーディネーターは1人であるが、プロジェクトを通じて身につけるスキルに地域とのコミュニケーションや調整を掲げ、プロジェクト活動で概ね3年を経過した活動は徐々にコーディネートの役割をプロジェクト参加教員及び学生にシフトしていくこと、地域連携コーディネーターは主に新規プロジェクトの立上げや運営サポートに重点を置くことが決定した。

また、地域連携室を担当するコーディネーター以外の職員との役割分担も整理し、コーディネーター(アドバイザー)は当面一人で運用している。

#### <学生リーダー>

当初は学生主体の自主プロジェクトの立ち上げも視野にいれていたが、当面、地域連携プロジェクトは教員を主とした正課プログラムとなったことから、学生リーダーは正課のサポート役として位置づけた。

新設された社会学部コミュニティデザイン学科で、1年生を対象に「北区北大路地域の人の伝記作成プロジェクト」を実施している。これは北大路エリアで地域活動に関わる人たちにインタビューを行いライフストーリーをまとめるもので、2年生時から参加する地域連携活動の準備学習として実施する正課の取り組みである。このプロジェクトに大学が雇用する形で各種プロジェクト活動経験者である上級生がラーニングアシスタントという役職で、プロジェクトの活動をサポートしている。

#### <(新規) 副室長設置>

地域連携活動が活発になると、大学への問合せや学内の調整等も増加している。こうした学内外の照会事案を速やかに対処していくため、地域連携室に副室長を設置。事務局と室長・室員のハブとして機能している。

#### <環境整備>

正課授業として活動に取り組むにあたり、①限られた時間を有効に活用できる移動手段、②活動の基本となる調査記録機器が拡充が必須課題であった。これらの課題に対し、2017年度の補助金にて移動用自転車、ICレコーダー、カメラなどを十分な数導入することができた。結果、プロジェクトの活動成果のみならず、1年次から始めるプロジェクト活動への導入教育の実現、授業時間の有効活用、記録機器類の操作スキル及び情報管理意識の向上が窺える。